



# 祐介の目

No.144

大田祐介 (福山市議会議員)

欲しい。これを3月議会の予算委員会で要望したが、解体の予算案は可決された。そして解体工事の入札が行われ、9月議会にて工事請負契約の議決が迫っている。

## 旧体育館の解体

旧体育館は私が生まれた昭和43年に建設された思い出深い建物だ。子供の頃のスイーパーカー展示会、大人になって行った憂歌団のコンサート、とりわけ選挙の開票では自分の名前が書かれた票を双眼鏡で見つけて感激した。

私も建築後55年経過して解体・更地は致し方なし思っていたが、スポーツ振興課が作成した福山市体育館記録誌を読んで実は価値ある建築物だと認識した。唯一無二の大屋根構造であり、福山市役所内の建築の精鋭集団により設計をされ、大屋根は日本鋼管の橋梁設計部が構造計算を行い、広い大空間を実現した。そもそも旧体育館のデザインの原点は武田五一が設計した旧公会堂であり、空襲にも焼け残った公会堂は戦後に臨時市役所となった。その公会堂のデザインを継承した旧体育館の解体後に建築予定の建物は公会堂のデザインを継承して

て市民有志による保存運動が活発になってきた。議会の手続き上では手遅れに近いが、広島市の旧陸軍被服支廠のように解体の規定路線を世論がひっくり返した例もある。まずは旧体育館に対する市民の認識が変わるか否かだ。例えば解体するにしても鉄骨の構造体だけは残して跡地に建てられる老人大学などに再利用できれば建築費用が節約できるかもしれない。耐震補強も体育館という大空間の必要が無ければ可能だろう。福山市もSDGs 未来都市宣言をしたのだから、建築物もスワップ&ビルドの繰り返しではなく、リノベーションやリボーンに主眼を置く姿勢が必要ではないか。

有志が提案するプランは個人的には面白いと思うし、夢があると感じる。しかし、議会制民主主義のルールから言えば、今さら計画変更は難しい。それでも市民の多様な声を聞き真摯に議場で議論するのが議会の務めだろう。